

5 研究のまとめ

(1) 平成27、28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]の結果より

解答類型を基にした解答の分析

平成27、28年度の学習状況調査[12月調査]の結果について、解答類型を基に解答を分析し、誤答傾向の変容を考察します。

ア 第4学年における実践について

- 実践校における課題の焦点化

「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」

- 課題の解決に向けて必要な力

「説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力」

※以下に解答類型と、解答類型を基にした児童の解答の分析を掲載しています。調査問題は、平成27・28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]です。調査問題については、著作権の関係上掲載することができませんが、佐賀県内の教職員の方につきましては、SEI-Netの諸調査集計・分析システムから閲覧することができます。

① 課題に関する設問の解答類型

小学校4年生 説明的な文章の問題 (平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査])

大問4 -

○設問の趣旨					
段落相互の関係を捉えて読む					
○学習指導要領における内容					
〔第3学年及び第4学年〕					
「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。					
○評価の観点					
読むこと					
○解答類型					
問題番号	解答類型			正答	反応率(%)
4	—	1	イと解答している	◎	83.9
		2	アと解答している		6.5
		3	ウと解答している		3.2
		4	エと解答している		3.2
		0	無解答		3.2

○考察

段落相互の関係を捉えて読むことができるかどうかを見る問題です。正答率は83.9%と「十分達成」の基準を3.9ポイント上回っています。段落相互の関係を、問い、例、理由などの言葉を使って説明していますが、最も多い誤答は、例と問いの間違いです。学習で使った言葉と文章中の語や文が、つながらなかったのではないかと考えられます。

大問4-**三**-あ

○設問の趣旨

中心となる語や文に注目して要点をまとめる

○学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕

- 「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

○評価の観点

読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 三-あ	1 (しっかりと) 押さえこむと解答している	◎	71.0
	2 えものをとらえる、とらえる等と解答している		9.7
	3 食べる等と解答している		3.2
	4 その他(走る、身を守る他)		12.9
	0 無解答		3.2

大問4-**三**-い

○設問の趣旨

中心となる語や文に注目して要点をまとめる

○学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕

- 「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

○評価の観点

読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 三-い	1 (するどい) かぎづめと解答している	◎	87.1
	2 大きくて硬いひづめ、ひづめと解答している		6.5
	3 つめと解答している		3.2
	4 その他(ライオン、えもの、ほね他)		0.0
	0 無解答		3.2

○考察

中心となる語や文に注目して要点をまとめることができるかどうかを見る問題です。「三-あ」は、「おおむね達成」の基準を11.0ポイント上回り、「三-い」は、「十分達成」の基準を7.1ポイント上回っています。ライオンの足のはたらきを正しく読み、キーワードとなる「かぎづめ」と「おさえこむ」を捉えることができています。誤答を見ると、問題の中で、モデルのクイズとなっているきりのクイズの内容を答えている誤答が多く、問題文の意図を捉えられなかったのではないかと考えられます。

② 解答を分析し、誤答傾向を考察した結果から

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕で課題となっていた「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」については、正答率は「おおむね達成」の基準に到達していることや、無解答率が減っていることから課題の解決に向かっているということが出来ます。

しかし、問い、例、理由などの言葉を用いて文章にまとめたり、中心となる語や文を用いて、要点をまとめたりすることには課題が見られます。引き続き授業改善が必要であるといえます。

イ 第5学年における実践について

○実践校における課題の焦点化

「求められた様式に合わせて書くこと」
 「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」

○課題の解決に向けて必要な力

「求められた様式に合わせて書く力」
 「文章を読んで自分の考えを書く力」

① 課題に関係する設問の解答類型

小学校5年生 文学的な文章の問題（平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕）

大問3-二

○設問の趣旨

優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる

○学習指導要領における領域及び指導事項

〔第5学年及び第6学年〕

「読むこと」エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

○評価の観点

読むこと（活用問題）

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)	
3 二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①「エフ博士の作りたかったマクラは」に続けて、この物語のおもしろさを書いていること ②「ねむっている時だけ」という言葉を使って書いていること ③「…でした。」に続くように書いていること (正答例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているうちに英語の勉強ができるという予定でした。しかし、できあがったマクラは、ねむっている時だけしか英語が話せないもの(でした)。 ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているうちに勉強ができる予定でしたが、完成したマクラは、ねむっている時だけしか役に立たないもの(でした)。	◎	60.6	
	1 条件①、②、③を全て満たしているもの			0.0
	2 条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの			3.0
	3 条件①は満たしているが、条件②、③は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているときに勉強ができるしかけで、ねむっているときには英語が話せるようになるけれど、起きていうときはききめがない。ねむっているときのねごとが英語になっている。(でした)。			
	4 条件②、③は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっている時だけ勉強ができるマクラでしたが、実際は、勉強ができるのは英語だけ(でした)。			
	5 条件②は満たしているが、条件①、③は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっている時だけいろいろな勉強ができた(でした)。			3.0
	6 条件①、③は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっていて勉強ができるはずだったが、実際はねごとで英語をいうだけ(でした)。			6.1
	9 上記以外の解答→ (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっていて英語が話せるマクラでした(でした)。 ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているうちに勉強ができて、英語でねごとをいうマクラだ(でした)。			9.1
	0 無解答			3.0

○考察

優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題です。「おむね達成」の基準を15.6ポイント上回っています。課題となっていた無解答率は、3.0%で、[4月調査]より10ポイント以上改善が見られます。

正答の条件①の物語の面白さを捉えて書いているか、正答の条件②、③の求められた様式に合わせて書いているかの2つの点で、誤答の傾向を考察します。正答の条件①を満たせなかった誤答は、27.5%で最も多くなっています。正答の条件②、③の両方またはいずれかを満たせなかった誤答は、27.2%となっています。文章の内容を捉えることと、様式に合わせて書くことは、どちらも課題であると思われます。しかし、解答類型9の正答の条件①、②、③の全てを満たせなかった誤答は、[4月調査]より4.9ポイント改善が見られます。

② 解答を分析し、誤答傾向を考察した結果から

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]で課題となっていた「記述式の問題に無解答が多いこと」と「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」については、自分の考えを記述しようとする関心・意欲面の伸びは見られました。しかし、求められた様式に合わせて書く力と文章を読んで自分の考えを書く力については、[4月調査]より改善は見られたものの、継続的な指導が必要だと思われます。

ウ 第6学年における実践について

○実践校における課題の焦点化

「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えること」

○課題の解決に向けて必要な力

「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える力」

① 課題に関する設問の解答類型

小学校6年生 説明的な文章の問題 (平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査])

大問4-□

○設問の趣旨					
文章の内容を的確に捉えること					
○学習指導要領における領域及び指導事項					
〔第5学年及び第6学年〕					
「読むこと」ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みだりすること。					
○評価の観点					
読むこと					
○解答類型					
問題番号		解答類型	正答	反応率(%)	
4	一	1	アと解答している	◎	50.0
		2	イと解答している		37.7
		3	ウと解答している		10.0
		4	エと解答している		0.0
		0	無解答		3.3

大問3 一三

○設問の趣旨

登場人物の心情を捉え、条件に合わせてまとめる

○学習指導要領における領域及び指導事項

〔第5学年及び第6学年〕

「読むこと」エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

○評価の観点

読むこと（活用問題）

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
3 三	<p>(正答の条件) 次の㉑㉒㉓の条件を全て満たしているものを正答とする。</p> <p>①「太陽のカケラ」「みんな」の二つの言葉を使って書いていること</p> <p>②「～のために」を使って書いていること</p> <p>③「～から。」に続くように書いていること</p> <p>(正答例)</p> <p>ひばりは、みんなのために、太陽のカケラを取ってこようとした(から。)</p>		
1	条件①、②、③を全て満たしているもの	◎	66.7
2	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの		3.3
3	条件①は満たしているが、条件②、③は満たしていないもの		0.0
4	条件②、③は満たしているが、条件①は満たしていないもの		0.0
5	条件②は満たしているが、条件①、③は満たしていないもの		0.0
6	条件①、③は満たしているが、条件②は満たしていないもの		6.7
9	上記以外の解答		20.0
0	無解答		3.3

○考察

4一〇は、文章の要旨を捉えて題名を問う設問です。題名には筆者の考えや書かれている内容の中心が表れることが多いものです。したがって、大体の要旨を捉えることができなければ題名を考えることができません。これは、「書くこと」にもつながります。自分が書いた文章の題名を考えるととき要旨を踏まえて書くことが重要です。平成28年度の学習状況調査[4月]で出題された要旨を捉える問題と比較すると、正答率は同じ50%となりました。設問としては選択式であるものの正答率が上がらなかったことには課題が見られると思います。しかし、授業実践を通して要旨を捉える際に、題名にも着目したことでこの正答率につながったともいえるのではないのでしょうか。題名をキーワードにして要旨を読み取る学習も計画的に単元内の1単位時間として設定する必要があると考えます。

3一三は、文学的な文章の設問で、登場人物の心情を捉え、条件に合わせてまとめる活用問題です。平成27年度の学習状況調査[4月]を解いた時と比較すると、正答率が16.7ポイント改善されており、条件を満たすことができなかった解答類型2～6の解答は10.0ポイントと低くなりました。このような結果につながった要因として考えられるのは、授業実践を核として日々の授業から単元を通して位置付けた言語活動で「読むこと」と「書くこと」を関連付けて指導したことが挙げられます。その際、文字数やキーワードなどを条件として示して、児童に要旨を書かせたことも有効であったと考えられます。

② 解答を分析し、誤答傾向を考察した結果から

大問4ー□に関して、イと解答している児童が多く見受けられことは、正答のアも誤答のイも文章全体を捉えた題名であったことが要因として考えられます。このことを改善するためには、題名を基にして文章を分析的に読む必要があると考えます。具体的な手立てとしては、題名に関する内容にラインを引いて検討したり、文章のまとまりごとに小見出しを付けたりすることが考えられます。

大問3ー□に関して、条件を満たして書くことはできているものの、解答を丁寧にまとめようとしすぎたために、冗長なまとめになった児童が多く、文と文のつながりが不明瞭になるという傾向にありました。したがって、自分の考えを簡潔に書く指導を充実させることが大切だと考えます。さらに、前後の語句や文のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えて書かせる指導の充実が必要になってくると考えます。

(2) 研究の成果と課題

本研究を振り返り、【成果】と【課題】を明確にし、【これからの国語科授業づくりに向けて】研究の方向性を考えていきたいと思えます。

【成果】

- 学習状況調査の解答を分析し、誤答の傾向を知ることで、課題の解決に向けて付けさせたい力が明確になりました。
- 付けさせたい力を高めるために、佐賀大学の研究アドバイザーから授業改善のポイントについて御助言を頂き、それを基に具体的な手立てを考え授業実践をし、手立ての有効性について考察することができました。
- 「単元で学び、単元で力を付ける」指導法について研究を深めたことは、次期学習指導要領において重要視されるアクティブ・ラーニングの視点とのつながりを意識できるものとなりました。

【課題】

- 「単元を通して位置付ける言語活動」と「指導事項、思考操作」を取り入れた学習課題との連動を、単元を通して指導する工夫について更に研究を深める必要があります。
- 学習課題に対して協働して学ぶ「グループ学び」の取り入れ方や、児童が主体的に学ぶことができる自己評価について具体的な手立てを講じていく必要があると考えます。

【これからの国語科授業づくりに向けて】

- 次期学習指導要領では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育成することを目指しています。小学校国語科において、「知識・技能」とは、日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うこと。「思考力・判断力・表現力等」とは、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力。「学びに向かう力・人間性等」とは、言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度だと考えます。
- 資質・能力を育成するためには、「言葉による見方・考え方」を働かせることが大切になって

きます。「言葉による見方・考え方」とは、対象と言葉、言葉と言葉の意味の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることです。国語科においては、自分の思いや考えを形成し深めることが、重要な学びであります。言葉を通して学ぶということが考えをもって教師が指導に臨むことが重要です。

○上記のことを踏まえて、小学校国語科のプロジェクト研究において、「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニングの視点」）の視点から単元を通して位置付ける言語活動を充実させ、学習過程を質的に改善する必要があると考えます。そのために、児童が学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする学習場面、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉を理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を計画的に設けることが大切になると考えます。また、児童に「問い」をもたせながら学習を進めていくこと、語彙を習得させることの意識をもって授業改善に臨んでいきたいと考えます。

(3) 終わりに

本研究を進めるに当たり、検証授業実践校の武雄市立御船が丘小学校及び佐賀市立開成小学校、公開授業会場校の鳥栖市立鳥栖小学校及び鹿島市立明倫小学校の校長先生を初めとする職員の皆様、御協力ありがとうございました。

また、佐賀大学教育学部教授達富洋二先生には、お忙しい中に、研究委員会に御参加いただき、研究の方向性を明らかにしていただきました。検証授業及び公開授業の授業研究会にも参会くださり、本研究に対する多くの御助言を頂きました。心より感謝申し上げます。

関係する皆様の御協力で、2年間の「プロジェクト研究」授業改善（小学校国語）研究委員会の研究を進めることができました。研究に際し、多数の御支援を頂いたことに感謝の意を込め、お礼の言葉といたします。ありがとうございました。